

1. 環境に関する教育と研究

◆ 環境問題の政策研究と武者修行

環境問題への取り組みは様々ありますが、経済学類では政策や制度設計を通じて環境問題を考える講義がおこなわれています。単に講義を聴講するばかりでなく、仮説を立て、データを収集し、重回帰分析やロジスティック回帰分析などのモデル分析をおこない、統計的手法で仮説検証をおこなう実証研究を体験できるカリキュラムを用意しています。

実験経済学演習（藤澤ゼミ）では、さらに、これらの研究成果を学外場で発表する武者修行もおこなっています。学生が主体的に管理運営する WEST 論文研究発表会 (<https://www.west-univ.com/>) は、公共政策・国際政策・社会政策に取り組む大学ゼミを対象として、年に 1 回発表会を開催しています。参加ゼミは、大阪大学や同志社大学などの関西圏を中心とした任意の大学ゼミですが、近年は千葉大学など関東圏からも参加ゼミが増えています。発表会は、テーマごとに分科会に分けられ、発表内容やパワーポイントの出来栄は無論のこと研究論文を審査されます。なお、この発表会に至るまでに、6 月の研究会・9 月の中間発表会を経る必要があります、これらのハードルを飛び越えて、発表会にたどり着くものです。

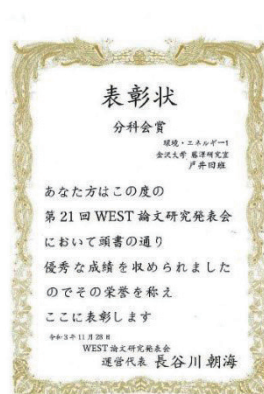


写真1 2018年WEST発表会の様子
@同志社大学

藤澤ゼミでは、毎年主に環境に関する政策研究に取り組んでおり、「節電喚起による節電効果の学生実験」(2018年)などをテーマに発表してきました。2021年度は、電気自動車(EV)の普及をテーマに「電気自動車普及の要因分析:日本の電動化をすすめるために」を発表した戸井田班(3名のチーム)が分科会賞(環境・エネルギー①)を受賞しました。



写真2 賞状を手にする戸井田班
(左から熊野さん・戸井田さん・唐澤さん)



このEVの研究は、補助金を付与する旧来型政策からのアプローチではなく、消費者の目線からのEV普及策を論じたところがユニークな点として評価されました。具体的には、世界各国のEVの普及状況と充電ステーションや車種の数などとの関係性を分析して、車種のバリエーションを増やすことで、消費者に

EVを選択してもらうインセンティブを提供できることを統計的に検証したものです。この研究の新規性は、脱炭素社会に向けて、補助金政策ではない、財政難下での新たな手法を提供できたことです。

環境問題は、全世界で取り組むべき喫緊の課題です。このような人類共通の課題に対して、問題意識を持ち仮説を立てることは問題を適切に把握する力を育み、統計的手法を使用して分析し考察することで論理的思考を養います。金沢大学経済学類では、環境問題を通じて次世代の若者の「自ら考え動き提案していく力」を伸ばしています。(人間社会研究域経済学経営学系 藤澤 美恵子)